

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	鳥取県	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	鳥取県文化遺産活用地域活性化事業計画		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
鳥取県教育振興基本計画（平成21年第一期計画、平成26年第二期計画策定）及びようこそようこそ鳥取県運動取組方針（平成22年策定、平成27年改訂）を踏まえ、地域の文化遺産の次世代の継承・発展や、文化遺産を活用した地域活性化を推進する取組を実施する。また、計画期間中は取組を通じて、行政と民間団体、文化財保護団体による連携・協力体制の確立を目指す。			
6 実施体制			
本事業については、鳥取県が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行う。 主な担当課、役割 ・教育委員会事務局文化財課：文化財の取扱等に関する指導等 ・各総合事務所地域振興局：地域振興業務に関する連携、調整等 ・地域振興部文化政策課：文化振興業務に関する連携、調整等 また、事業は、次の団体が実施。 ・鳥取県文化財保存協会 関連団体（とっつりの文化遺産魅力発掘プロジェクト実行委員会、伯耆国たたら顕彰会、NPO法人プロデュース・ハレ） （※構成団体の八頭若桜谷文化遺産魅力発信事業委員会の事業実施は無し）			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 84,691 千円	平成30年度申請額： 19,843 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
本計画に基づく事業の実施により、県民の身近にある多様で豊かな文化遺産に対し、県民の関心や意識の向上が期待でき、地域の文化遺産の保存と次世代への確実な継承の効果をもたらす。また、地方公共団体と地域の文化遺産に関わる民間団体が協働して事業に取り組むことにより、県民目線による地域の文化遺産の魅力を再発見、地域が主体となったまちづくりやエリアブランド化、観光客の誘客など地域の活性化が期待できる。 また、情報発信や普及啓発事業などの事業実施により、県観光入込客数目標毎年1100万人（ようこそようこそ鳥取県運動取組方針平成27年改訂目標）に寄与するものと考えてる。			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	「ふるさとを元気に」とっつりの文化遺産活用推進事業（県財源事業） ○文化遺産を活かした地域振興活動への支援		
事業概要：			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
地域が主体となり文化遺産の次世代の継承・発展や、活用する取組のため、平成23年度から文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業を実施しているが、歴史歴史文化基本構想は、地域の多様な文化財を把握し、文化財の周辺環境まで含めて保存、活用する構想であること。そしてこの構想はまちづくり、文化振興、教育振興計画と整合をもたせ作り上げるものであることから、基礎自治体である市町村が策定に向う地域の機運醸成を図りたいと考えている。			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	鳥取県教育委員会事務局文化財課（歴史遺産室）		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1：	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1：	地域の文化遺産への来場者数（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標 1：	本事業で活用する文化財「国史跡妻木晩田遺跡」の来 跡者数			関連事業：	①、②	
目標値 1：	平成 27 年度 36,366 人 ⇒ 平成 33 年度 38,603 人					
設定根拠 1：	妻木晩田遺跡が所在する大山地域の平成23年度→27年度観光入込客数の伸び率を参考に1.01倍を 年間伸び率とした。					
進捗状況 1：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
32,952 人	人	人	人	人	人	
-153%						
目標区分 2：	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 2：	その他（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標 2：	本事業実施エリア（鳥取県西部）の観光入込客数			関連事業：	③、④	
目標値 2：	平成 26 年度 1,545,000 人 ⇒ 平成 33 年度 1,700,000 人					
設定根拠 2：	県目標とする観光入込客数（平成26年度10,048千人→11,000千人）を参考に、県西部エリアの観 光入込客数を 1 割程度の増加目標に設定。					
進捗状況 2：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
1,265,000 人	人	人	人	人	人	
-181%						
目標区分 3：	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3：	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標 3：	県内伝統芸能保存会数の維持			関連事業：	⑥⑦	
目標値 3：	平成 27 年度 187 団体 ⇒ 平成 33 年度 187 団体					
設定根拠 3：	平成27年度の調査研究で確認された県内伝統芸能保存会数により設定					
進捗状況 3：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
187 団体	団体	団体	団体	団体	団体	
100%						

8（2）実施事業の概要 別紙

事業①：	淀江・大山の歴史遺産事業					実施団体：	とつとりの文化遺産魅力発掘プロジェクト実行委員会				
事業区分：	普及啓発					事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 30 年度				
事業概要：	上淀廃寺跡等の貴重な文化遺産が存在する淀江・大山地域の文化遺産をテーマとした講座を行う。住民に、地域にある文化遺産の歴史的意義や貴重さを感じてもらい、地域の誇り、地域の宝として認識を深めていただき、以って文化遺産の継承と活用を果たすことを目的とする。										
評価指標区分：	・その他					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	継続的に実施事業への関わりを希望するファン（事業実施情報の提供を希望する者等）を募り、事業実施情報の提供希望の登録者数を指標とする。事業実施期間（平成30年度）までの目標は35名、予定事業実施期間後は、登録希望者がリピーターとなることが想定されることから毎年定員の1割の5名の増加を目標とする。										
目標値：	平成 28 年度 0 人					⇒	平成 33 年度 50 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
39 人	人	人	人	人	人						
78%											
事業②：	米子歴史絵巻					実施団体：	とつとりの文化遺産魅力発掘プロジェクト実行委員会				
事業区分：	普及啓発					事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 30 年度				
事業概要：	米子市内に点在する史跡の価値を地域住民、県内外の方への周知を目的に、地域のシンボルともなっている史跡米子城跡で地域の伝統芸能を披露し、地域の文化遺産を連携させた周知を図り、文化遺産の普及啓発やその保護・活用を志す人材を育成する契機とすることを目指す。										
評価指標区分：	・その他					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	継続的に実施事業への関わりを希望するファン（事業実施情報の提供を希望する者等）を募り、事業実施情報の提供希望の登録者数を指標とする。事業実施期間（平成30年度）までの目標は100名、予定事業実施期間後は、登録希望者がリピーターとなることが想定されることから毎年定員の1割である20名の増加を目標とする。										
目標値：	平成 29 年度 0 人					⇒	平成 33 年度 160 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
58 人	人	人	人	人	人						
36%											
事業③：	たたらフォーラム					実施団体：	伯耆国たたら顕彰会				
事業区分：	普及啓発					事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度				
事業概要：	かつて中国山地において盛んに行われた「たたら」製鉄について、地域の歴史・文化遺産としての価値を高め、普及啓発するため、各年テーマを設定し討議を行う。 またフォーラムでは、上記の目的をより促すため参加者に所有の史料提供や協力を呼びかける。										
評価指標区分：	・その他					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	フォーラム開催により、参加者にたたら製鉄への関心と知識の習得してもらい、たたら製鉄調査への協力者の増を図るとともに、たたら製鉄に関する史料の収集につとめる。目標値は、調査等協力者の人数。										
目標値：	平成 28 年度 1 人					⇒	平成 33 年度 5 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
2 人	人	人	人	人	人						
20%											

事業④：		たたら製鉄遺跡調査研究事業			実施団体：		伯耆国たたら顕彰会		
事業区分：		調査研究			事業期間：		平成 29 年度 ～ 平成 29 年度		
事業概要：		「鳥取県生産遺跡分布調査報告書」に掲載のたたら製鉄遺跡の調査は終了したが、更に「伯耆志」、「日野郡史」、「近藤家文書による鉄山」等を史料を手掛かりとしながら、未発見の「たたら製鉄遺跡」を地域住民との対話を基にした情報収集を続けて新規発見につなげる一方、残っている未調査地域の調査を進める。							
評価指標区分：		(リストから選択してください。)				(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：		(具体的な指標を記載してください。)							
目標値：		平成 年度 (単位)			⇒		平成 33 年度 (単位)		
進捗状況：		各年度、状況値、目標に対する達成率							
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度				
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)			(単位)	
事業⑤：		普及啓発用の映像撮影. 収集と未調査団体(保存会)の調査			実施団体：		NPO法人プロデュース・ハレ		
事業区分：		調査研究			事業期間：		平成 29 年度 ～ 平成 29 年度		
事業概要：		新たに存在が判明した民俗芸能と、既調査分の不足情報を、各民俗芸能団体・自治体などより調査・取材して入手及び独自に取材・撮影などをして、データ化し、鳥取県内の民俗芸能の基礎情報をより完成形に近づける。またデータをHPや動画共有サイトへ掲載して情報発信を行う。							
評価指標区分：		(リストから選択してください。)				(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：		(具体的な指標を記載してください。)							
目標値：		平成 年度 (単位)			⇒		平成 33 年度 (単位)		
進捗状況：		各年度、状況値、目標に対する達成率							
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度				
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)			(単位)	
事業⑥：		後世に残すべき詳細な映像記録作成／伝承が進んでいない民俗芸能の記録作成			実施団体：		NPO法人プロデュース・ハレ		
事業区分：		記録作成			事業期間：		平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：		存続が出来なくなっても記録として後世に残す為、民俗芸能の最も重要な本番と芸能の内容（所作なども含めて詳細な手引き(ハウツー的なところ)を重点に入れ込む）を鮮明な映像と資料で記録しデータ化・DVD化する。また、後継者への指導ツールにも使用する。（映像(手引き. 本番. 他)としてDVD作成、楽曲収録としてCD作成、WEB等に掲載して発信）							
評価指標区分：		・記録映像の貸し出し（又は利用）回数等				(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：		・記録映像の頒布先より利用回数 300→1,000							
目標値：		平成 28 年度 300 回			⇒		平成 33 年度 2,000 回		
進捗状況：		各年度、状況値、目標に対する達成率							
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度				
300 回	回	回	回	回	回			回	
0%									

事業⑦：	パンフレット制作			実施団体：	伯耆国たたら顕彰会		
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度		
事業概要：	平成30年度に予定されている大山開山1300年祭を契機に、来客者に奥大山地域といわれる日野郡のたたら製鉄のPRを行い、誘客を図る。						
評価指標区分：	・その他				(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	たたらの楽校入場者数 ※「たたらの楽校」は、奥日野地域で古くから営まれてきた日本古来の製鉄技術たたらの歴史をたどり、そこに深い関心を有する人々の拠り所とし、またより多くの人々に理解の輪を広げていくことを目的として設立された。たたら製鉄の歴史やオロチ伝説、炭焼き産業の歴史を、学習パネルやジオラマなどの展示で紹介している。						
目標値：	平成 30 年度		1,200 人		⇒	平成 33 年度	1,400 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度		
784 人	人	人	人	人	人	人	
-30%							
事業⑧：	たたら製鉄遺跡案内看板制作			実施団体：	伯耆国たたら顕彰会		
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	鳥取県日野郡を主とするたたら製鉄遺跡を説明する看板を設置し、たたら遺跡の位置を周知する。						
評価指標区分：	・その他				(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	たたら製鉄遺跡に係るメーリングリスト登録者数						
目標値：	平成 29 年度		62 人		⇒	平成 33 年度	70 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度		
62 人	人	人	人	人	人	人	
0%							